

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	普通預金	250,000,000	資本金	125,000,000
	創立費	756,000	資本準備金	125,000,000
2	本店	216,000	現金	756,000
3	当座預金	216,000	当座預金	216,000
	売上割戻	125,000	当座預金	100,000
4	売上割戻引当金	75,000	売掛金	100,000
	満期保有目的債券	78,400,000	普通預金	78,680,000
5	有価証券利息	280,000		
	減価償却費	3,888,000	車両	3,888,000

・解説

1. 設立時の新株発行に関する問題です。

本問のように「資本金は会社法で認められている最低限度額を計上することとした」という指示がある場合は、払込金額総額から資本金組み入れの最低額（＝払込金額の二分の一）を差し引いた額を資本準備金として処理します。

電卓で計算する場合は、払込金額総額 250,000,000 円（＝5,000 株×50,000 円/株）を 2 で割って、それぞれを資本金・資本準備金で処理するだけです。

会社法 445 条 2 項…前項の払込み又は給付に係る額の二分の一を超えない額は、資本金として計上しないことができる。

会社法・445 条 3 項…前項の規定により資本金として計上しないこととした額は、資本準備金として計上しなければならない。

なお、最低組み入れ額の規定は「できる」規定なので、必ずしも二分の一が強制されるわけではありません。あくまでも、**問題文に指示がある場合にのみ適用されるもの**なので注意してください（指示がない場合は、全額資本金で処理）

また、創立費とは設立登記までに要した費用をいい、発起人への報酬や定款作成にかかる諸費用だけでなく、新株発行にかかる諸費用も含まれます。株式交付費で処理しないように気をつけてください。

- ・設立時の新株発行にかかる諸費用…**創立費**で処理する
- ・増資時の新株発行にかかる諸費用…**株式交付費**で処理する

本問は、問題文に「発起人が株式発行に係る諸費用 ￥756,000 を立て替え払いしていたことが判明した」とあるので、756,000 円を創立費で処理します。

なお、「発起人が立て替えて支払った→立替金」と判断した方もいらっしゃるかもしれませんが、立替金は**会社が立て替え払いをした時に使う勘定科目**です。混同しないように気をつけましょう。

新株発行に関する問題は、第 114 回の問 1や第 120 回の問 2、第 122 回の問 1、第 127 回の問 1、第 130 回の問 4、第 131 回の問 4、第 133 回の問 4、第 137 回の問 4、第 143 回の問 3、第 146 回の問 4でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 本支店会計に関する問題です。

本問は「**本店が支払うべき買掛金を多摩支店が支払った**」だけなので、仕訳自体はとても簡単です。

★解答・多摩支店の仕訳

(借) 本店 216,000 / (貸) 当座預金 216,000

なお、本問は、問題文に「今回は本店側の仕訳を解答する必要はない」とあるので、本店の仕訳を解答する必要はありませんが、参考までにご確認ください。

☆参考・本店の仕訳

(借) 買掛金 216,000 / (貸) 多摩支店 216,000

本支店会計に関する問題は、第 116 回の問 3や第 121 回の問 1、第 126 回の問 5、第 137 回の問 1、第 142 回の問 5、第 145 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 売上割戻に関する問題です。

本問は、今回の仕訳問題 5 問の中では最も難度の高い問題ですが、商店別に順を追って考えていけば正解にたどり着けるはずですよ。

■恩田商店に関する仕訳

それでは早速、恩田商店のほうから考えてみましょう。問題文の中から恩田商店に関する指示だけを抜き出すと、以下のような一文になります。

恩田商店が ¥ 100,000 の売上割戻を実施する要件を満たしていることが判明したので、小切手を振り出して支払った。

小切手を振り出しているので貸方には当座預金、売上割戻を実施したので借方には売上…としたいところですが、本問は問題に列挙されている勘定科目の中に売上がない(売上割戻はある)ので、売上割戻で処理すると判断します。

★解答①・恩田商店の仕訳

(借) 売上割戻 100,000 / (貸) 当座預金 100,000

■瀬尾商店に関する仕訳

次に、瀬尾商店のほうを考えてみましょう。問題文の中から瀬尾商店に関する指示だけを抜き出すと、以下のような一文になります。

瀬尾商店が ¥ 100,000 の売上割戻を実施する要件を満たしていることが判明したので、同店に対する売掛金を減額することとした。ただし、前期末に売上割戻引当金 ¥ 75,000 を計上している。

瀬尾商店に対しては売上割戻引当金を設定しているので、100,000円のうち75,000円については引当金を充当し、残額の25,000円を売上割戻で処理します。

★解答②・瀬尾商店の仕訳

(借) 売上割戻引当金 75,000 / (貸) 売 掛 金 100,000
(借) 売 上 割 戻 25,000

最後に①②の仕訳をまとめると解答になります。

■期中に売上割戻で処理した場合、決算整理仕訳はどうなる？

本問では問われていませんが、期中に売上割戻で処理した場合は決算整理仕訳で**売上**に振り替えます。参考までに仕訳をご確認ください。

☆参考・決算整理時の仕訳

(借) 売上 125,000 / (貸) 売上割戻 125,000

売上割戻に関する問題は、第148回の問4でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 有価証券の購入に関する問題です。

本問は、取引を【有価証券の購入に関する仕訳】と【利息の支払いに関する仕訳】の2つに分けて解答を考えましょう。

■有価証券の購入に関する仕訳

社債を購入した場合、購入代価と付随費用（取得に伴い発生した費用）の合計額を取得原価として資産計上しますが、本問は付随費用が発生していないので、購入代価を計算するだけです。

$$\text{取得原価} = \text{購入代価} + \text{付随費用} = (80,000,000 \text{円} \times @98 \text{円} / @100 \text{円}) + 0 \text{円} = \mathbf{78,400,000 \text{円}}$$

なお、本問は問題文に「満期日に償還されるまで保有する予定」とあるので、満期保有目的債券で処理します。

- ・短期間で売買する目的で購入：売買目的有価証券で処理
- ・満期まで保有する目的で購入：満期保有目的債券で処理
- ・その他の目的（長期保有など）で購入：その他有価証券で処理

★解答①・有価証券の購入に関する仕訳

(借) 満期保有目的債券 78,400,000 / (貸) 普 通 預 金 78,400,000

■利息の支払いに関する仕訳

問題文に、「年利率：3.65%、利払日：毎年6月および12月末日」とあり、購入日が2月4日なので、1月1日から2月4日までの35日分（31日+4日）の端数利息を計算します。

$$\text{有価証券利息} = 80,000,000 \text{円} \times 3.65\% \times 35 \text{日} / 365 \text{日} = \mathbf{280,000 \text{円}}$$

★解答②・利息の支払いに関する仕訳

(借) 有価証券利息 280,000 / (貸) 普通預金 280,000

以上、①②の仕訳をまとめると解答仕訳になります。

ところで、上記の仕訳について、なぜ購入時に「前回の利払日の翌日から購入日までの端数利息」を支払わなければいけないかはお分かりですか？

社債を購入すると次回の利払日（本問の場合は6月末日）に半年分の利息を受け取ることになりますが、購入時に「前回の利払日の翌日から購入日まで端数利息」を先に支払っておかないと、保有していなかった期間（1月1日から2月4日まで）の分まで余分にもらってしまうことになるからです。

・購入日（2月4日）：前回の利払日の翌日から購入日までの35日分の端数利息を支払う

・利払日（6月30日）：半年分の利息を受け取る

→「半年分の利息－35日分の利息」で**保有期間に見合った有価証券利息**が計上される

質問掲示板でもよくお問い合わせいただく論点なので、上記の考え方・処理方法をきちんと押さえておきましょう。

有価証券の購入に関する問題は、第102回の問3や第124回の問4、第130回の問1、第143回の問1、第144回の問4、第145回の問3、第149回の問2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 固定資産の減価償却に関する問題です。

本問は生産高比例法により減価償却を行っているので、利用度に応じた減価償却費を計上します。

$$\text{取得原価 } 21,600,000 \text{ 円} \times 0.9 \times 6 \text{ 万キロ} / 30 \text{ 万キロ} = 3,888,000 \text{ 円}$$

なお、本問は問題文に「**記帳方法：直接法**」とあるので、貸方は**車両勘定**になります。車両減価償却累計額勘定を使わないように気をつけましょう。

固定資産の減価償却に関する問題は第104回の問2や第116回の問1、第130回の問3でも出題されていますが、いずれも簡単な問題です。